



# 横山式ジャカードを考案 桐生産地発展期の功労者

## 「横山嘉兵衛没後100年展」

桐生織物記念館の二階特別展示室で「桐生の機業家・横山嘉兵衛没後100年展」が11月10日まで開かれている。

横山嘉兵衛は藤生佐吉郎、森山芳平とともに桐生織物発展期の三功労者と呼ばれている。この展示は横山家に伝わる貴重な資料を中心に嘉兵衛の足跡をたどる画期的なもので、織都桐生千三百年企画として開催されている。

横山嘉兵衛は嘉永5年（1853）に山田郡新宿村（現桐生市新宿）の機業家の子として生まれた。幼いころから漢学を学ぶ聡明な子どもであり15歳という若さで家業を継ぎ、機織に従事した。成長するにつれ数々の製織技術を磨くとともに、有志とともに染色講習会を開き、染色業界の発展向上に努めた。

明治9年（1876）に三井物産の委託を受けフランスの万国博覧会に出品した精巧優美な織物が評判を呼び、桐生織物の名声を一躍海外に高めたという。明治17年（1884）に京都西陣を視察した際に機大工が作ったフランス式模擬木製ジャカードを持ち帰り、これを利用して肩掛けや襟巻、ネクタイなどを製造、国内はもとより海外にまで需要を広めたといわれる。

明治21年（1888）の皇居御造営に際して、横山嘉兵衛と森山芳平、藤生佐吉郎の三人に紋織物の窓掛け（カーテン）の製造を命ぜられ、アメリカ製のジャカード機を購入、フランス式と併用して、見事な御用織物を製織した。このことがきっかけとなり、アメリカ、フランス式の長短所を補い折衷した「横山式木製ジャカード機」を考案、この機械が紋織羽二重の製織につながり、輸出品のトップを占めるまでになった。

会場には、その黒地に鳳凰の柄を配した窓掛けが展示され、当時の高い技術を伝える。（写真右）このほか、嘉兵衛の肖像画や当時の群馬県令（県知事）榎取素彦から贈られた書、内国勸業博覧会での賞状、堪能の誉れが高かった俳句資料など多数の資料を展示。桐生産地の発展に大きな足跡を残した先覚者をクローズアップしている。



- 開催期日／11月10日まで 午前10時～午後5時（入場無料）
- 開催場所／桐生織物記念館2階特別展示室（桐生市永楽町6-6）